

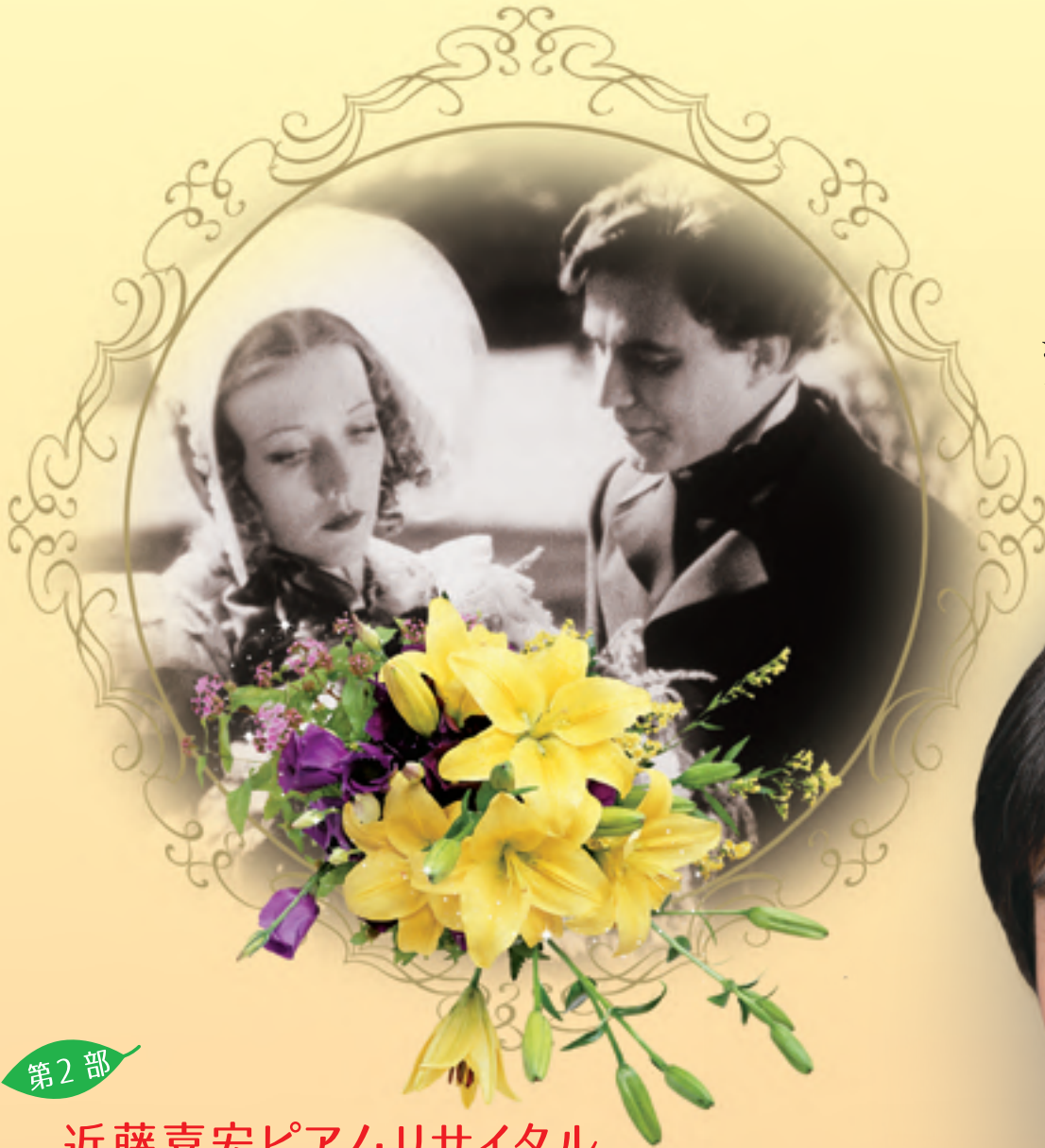
名作映画とピアノ・リサイタルで楽しむ

第22回シネマ・コンサートの会 in びわ湖ホール

別れの曲

シネマ&リサイタル

近藤嘉宏 plays ショパン



第1部



ショパンの愛と青春を描く、音楽映画の名作
リストとの《英雄ポロネーズ》連弾シーンは必見!

映画「別れの曲」上映 (91分)

第2部

近藤嘉宏ピアノ・リサイタル

《オール・ショパン・プログラム》

ワルツ 第3番「華麗なる円舞曲」／ワルツ 第14番 遺作

ノクターン 第8番／エチュード「別れの曲」

エチュード「エオリアンハーブ」／エチュード「大洋」

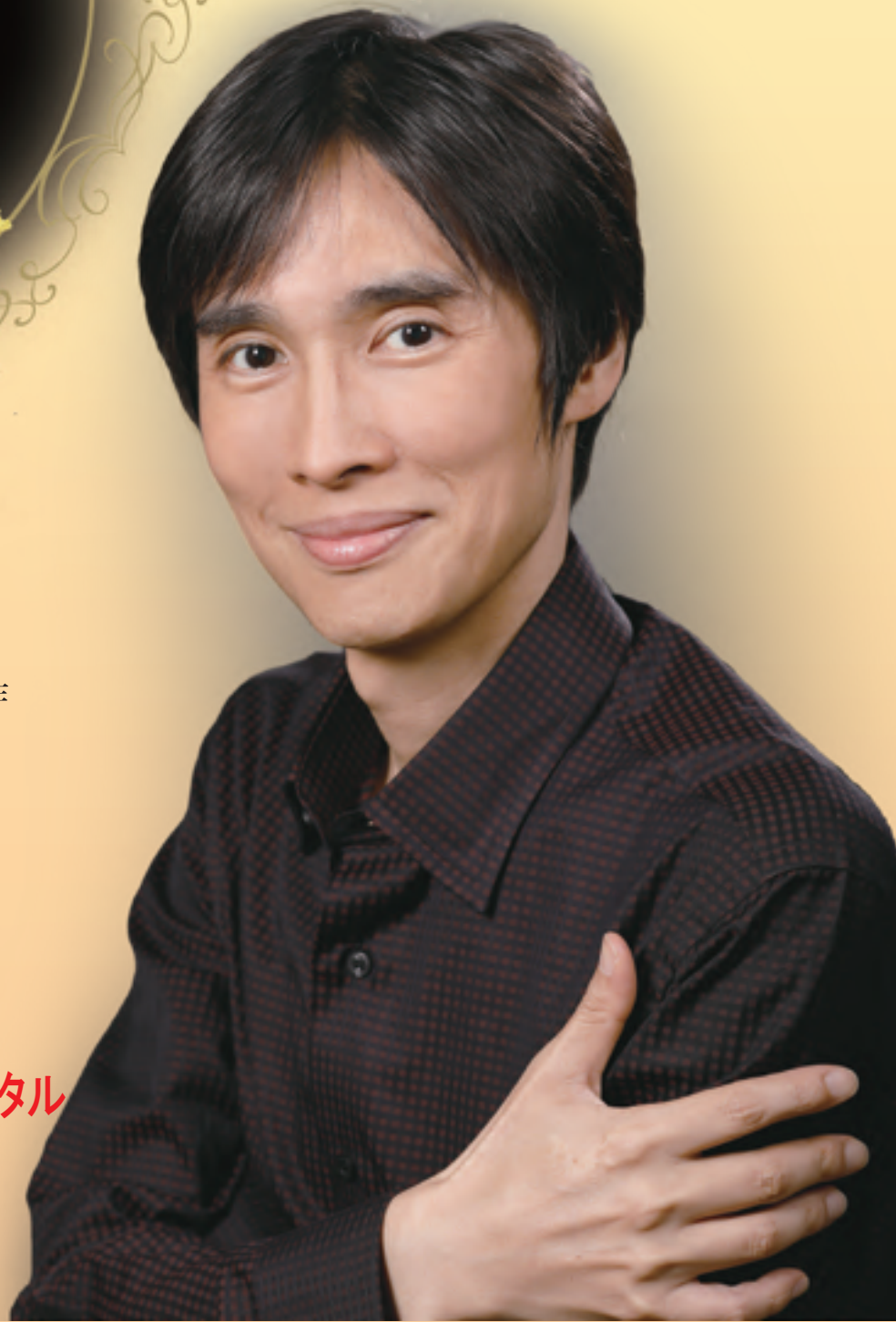
マズルカ (Op.67-4)／舟歌／ノクターン 遺作

幻想即興曲／スケルツォ 第2番

2024年10月31日(木) 開演12:30

第1部 映画上映 第2部 ピアノ・リサイタル

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール小ホール



名作映画上映とピアノ・リサイタル、2部構成で贈るショパンへの旅



第1部

映画『別れの曲』上映

エチュード第3番が「別れの曲」と
呼ばれる由来となった、伝説の名画！

Story

ポーランド・ワルシャワ。デビューを果たしたばかりの若きショパンは、歌手を目指すコンスタンティアとの恋と、ロシア帝国の圧政にあえぐ自国ポーランドの独立運動に、胸を熱く昂ぶらせる青春の日々を送っていた。音楽教授エルスナーは愛弟子ショパンの才能を革命に散らせてはならないと考え、出国を渋るショパンを説得するため、コンスタンティアに力を貸してくれるように頼む。

パリへ出たショパンは、動乱に揺れる祖国への想いを自らの曲と演奏に託し、男装の人気女流作家ジョルジュ・サンドや、フランツ・リストとの出会いを通じて、パリ社交界の寵児となってゆく。一方、コンスタンティアは再会を信じてパリに向かうのだが…。

1934年に制作されたこの映画は、翌年の昭和10年(1935)に日本でも公開され大ヒットとなりました。※同年『キネマ旬報』ベストテン8位。

ショパンの名曲がふんだんに使われ、特に《エチュード第3番ホ長調》はメインのテーマ曲として使用されて涙を誘い、映画と共に人々の心に残ることとなりました。以来日本ではこの曲が《別れの曲》と広く一般に呼ばれるようになったと言われています。

Staff & Cast

監督：ゲツァ・フォン・ボルヴァー

脚本：エルンスト・マリシュカ

撮影：ヴェルナー・ブランデス

音楽監督：アロイス・メリヒャー



フレデリック・ショパン：ヴォルフガング・リーベンアイナー

コンスタンティア：ハンナ・ヴァーグ

ジョルジュ・サンド：シビル・シュミッツ

フランツ・リスト：ハンス・シュレンク

エルスナー教授：リヒャルト・ロマノスキー

カルクブレンナー：グスタフ・ヴァルダウ

ブレイエル：パウル・ヘンケルス ほか

♪劇中で使われるショパンの作品♪

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| ●エチュード「別れの曲」Op.10-3 | ●ワルツ No.7 Op.64-2 |
| ●エチュード「革命」Op.10-12 | ●ワルツ No.9「別れのワルツ」Op.69-1 |
| ●エチュード「木枯らし」Op.25-11 | ●ワルツ No.13 Op.70-3 |
| ●ワルツ No.1「華麗なる大円舞曲」Op.18 | ●ワルツ No.14 (遺作) |
| ●ワルツ No.3「華麗なる円舞曲」Op.34-2 | ●マズルカ No.5 Op.7-1 |
| ●ワルツ No.5「大円舞曲」Op.42 | ●マズルカ No.24 Op.33-3 |
| ●ワルツ No.6「小犬のワルツ」Op.64-1 | ●ポロネーズ No.6「英雄」Op.53 |

1934年 / ドイツ映画 / ドイツ語 / モノクロ / スタンダードサイズ / 91分 / 配給：アダージェット



第2部

近藤嘉宏ピアノ・リサイタル

《オール・ショパン・プログラム》

※曲目は変更になる場合がございます

- ワルツ 第3番 イ短調 Op.34-2「華麗なる円舞曲」
- ワルツ 第14番 ホ短調 遺作
- ノクターン第8番 変ニ長調 Op.27-2
- エチュード ホ長調 Op.10-3「別れの曲」
- エチュード 変イ長調 Op.25-1「エオリアンハープ」
- エチュード ハ短調 Op.25-12「大洋」
- マズルカ イ短調 Op.67-4
- 舟歌 嬰ヘ長調 Op.60
- ノクターン嬰ハ短調 遺作
- 「レント・コン・グラン・エスプレッショネ」
- 幻想即興曲 嬰ハ短調 Op.66
- スケルツォ 第2番 変ロ短調 Op.31

近藤 嘉宏 Yoshihiro Kondo Profile

川崎市生まれ。桐朋学園大学を首席卒業。1987年日本音楽コンクール第2位。大学卒業後ミュンヘン国立音楽大学マイスターコースにおいて名匠ゲルハルト・オピッツのもとで研鑽を積み、92年ミュンヘン響との共演でデビュー。国内では95年に正式にデビューし、翌96年にはCDデビューを果たして一躍注目を浴びる存在となる。以来、日本を代表するピアニストとして第一線で活躍。これまでDenon、Philips、Deccaをはじめとする数多くのレーベルから30タイトル以上のCD及びDVDを国内外でリリースしている。

1998～2008年にかけてフェスティバルホール(大阪)で行った合計20回に及ぶリサイタル・シリーズや、1999年にショパン没後150年を記念して全国各地で行った大規模なツアーは絶賛を博し、驚異的な動員数を記録。2001年チョン・ミョンフンの主宰する「セブン・スターズ・ガラ・コンサート」に出演。海外においても充実した演奏活動を展開し、2004年にカーネギーホール、2006年にはウィーン・ムジークフェラインでリサイタルと、海外の主要ホールでも相次いでデビュー。2016年、ムジークフェライン大ホールにベートーヴェンのピアノ協奏曲「皇帝」でデビュー。国際的にも高い評価と支持を得ている。

2017年より、それまで不可能と言われていた松竹映画「砂の器」シネマコンサートの上演においてピアノ協奏曲「宿命」を含むピアノ・ソロを演奏し大成功を収め、以後再演を重ねている。これまでに数多くの国内外のオーケストラに客演し、ネーメ・ヤルヴィ、トーマス・ザンデルリンク、クリスティアン・マンデアル、外山雄三、広上淳一など多くのマエストロと共演を重ね、その音楽性に厚い信頼が寄せられている。

近藤嘉宏フェイスブック <https://www.facebook.com/yoshihirokondopianist/>



第22回シネマ・コンサートの会 in びわ湖ホール

「別れの曲」シネマ&リサイタル 近藤嘉宏 plays ショパン

日 時 2024年10月31日(木)

開場12:00 開演12:30

第1部 映画「別れの曲」上映 第2部 ピアノ・リサイタル

入場料金 (全席指定 税込)

S席5,000円 A席4,500円 (当日は各席500円増し)

会 場 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール小ホール

〈チケット発売日〉

●びわ湖ホール友の会優先受付 2024年8月1日(木)10:00～

(びわ湖ホールチケットセンター電話・ネット受付のみ)

●一般発売 2024年8月3日(土)10:00～

〈チケット取扱い〉

●びわ湖ホールチケットセンター ☎077-523-7136 <https://www.biwako-hall.or.jp/>

(10:00～19:00/火曜日休館、休日の場合は翌日 8/13～18は休館)

〈主催・お問合せ〉シネマ・コンサートの会 ☎090-8194-4804 〈協力〉滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール